評 後 価 書

(1)事業概要

(2)事業による環境の変化

(3)事業を巡る社会経済情勢の変化

(4)事業により整備された施設の維持管理状況

(5)県民の意見

○事業名

緊急地方道路整備事業 路線名及び地区名

主要地方道 浜玉相知線 所在地

唐津市相知町黒岩

工 期

平成9年度~平成14年度

総事業費

事業費 360百万円

事業内容

道路改築(自転車歩行者道整備) L = 900m

関連する事業

·(主) 浜玉相知線「鏡工区」BP R202~半田川 L=0.9 km

平成 17 年 11 月 1 日 供用開始

·西九州自動車道「唐津道路」 鹿家 IC~浜玉 IC L=3.8km 平成 21 年 12 月 供用予定 浜玉 IC~ 唐津 IC L=6.6 km

当路線は改良工事が進み、唐津市街への 抜け道としても利用され、交通量は増加傾 向にある。

平成 17 年 12 月 18 日 開通

また、鏡工区バイパスの供用開始や、西 九州自動車道 唐津 IC までの部分開通によ り、交通量が更に増加すると予測される。

事業区間は、伊岐佐小学校や相知中学校 の通学路になっており、歩道は狭いうえに 集落側には無く、児童生徒は2度の県道横 断を余儀なくされている。

このことから、通行車両と歩行者及び自 転車が錯綜するなど危険な状態(特に朝夕 の通学時間)となっており、車両の通行に も支障を来していた。

目 的

自転車や歩行者の交通安全確保、通行車 両の円滑化を図ることを目的として、車道 拡幅と併せ、集落側に自転車歩行者道の整 備を行った。



生活環境

交通量は約1割増加しているが、騒音・振動への大 きな影響は無いと考える。

また、騒音・振動に対する地元等よりの苦情等はあ っていない。

自然環境

現道拡幅による歩道の設置の工事であり、大規模な 山切り工事等は行っていないため、自然環境へ影響は ないと思われる。

社会文化環境

自転車や歩行者の安全と通行車両の円滑化が確保 され、事故件数が減少している。

交通量の推移(H11 H17)

・自動車(台/日)

9,130 10,180(1.12倍)

・自転車(台/12h) 4 2

41(0.97倍) ・歩行者(人/12h)

> 1 8 17(0.94倍)

沿道の利用状況

・福祉施設が開設

(デイサービス施設、地域グループホーム施設)

今回事業により整備された施設は、一般的な道路であ り、県が管理する他の道路と同様の維持管理及び補修を行 っている。

【県内道路の維持管理内容】

- ・定期的な道路パトロール(8回/月)
- ・伐採(1回/年)
- ・落下物の撤去

が図られた。

- ・動物の死骸処理 等

【メリット】

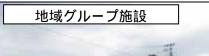
歩道が広くなり、児童を含む歩行者や、 中学高校生の自転車が、安心して通行出来 るようになった。

以前は、交通量が多い中、道路を2回横 断する必要があり、歩道も狭く、危険を感 じ、不満に思っていたが、集落側に幅が広 い歩道を整備され、安全になり感謝してい

信号機が無くなり、地元指導員を配置し なくてよくなった。

【デメリット】

スピード出す車が増え危険を感じる。





福祉施設の開設





交通事故件数が完全年度前後4年間で比較すると 減少している。

8件(H11~H14) 4件(H15~H18)

自転車歩行者道を整備したことにより、歩行者や自 転車の安全確保と通行車両の円滑化が図られている。

集落側に自転車歩道を整備したことで、反対側に渡 る必要が無くなり、信号を撤去できたことや、交通指 導員を配置しなくて良いようになった等、他の効果も 得られた。

(6)事業の効果

(7)地域住民との関わり

当該事業は、地元より歩道整備の要望を受け、事業に 着手したものである。

地元の全面的な協力を得て、円滑に事業が進められ、 早期事業効果の発現を得ることができた。

(8)今後の課題等

今回事業区間は地元協力を得られ、計画通りの事業進捗

しかし、他の道路事業においては、地元調整や用地交渉 の難航などにより、事業期間が長期化し十分な整備効果が 発揮できていない箇所がある。

(9)新規箇所評価、再評価への反 映、改善点等

課題改善への方策

事業計画についての合意形成の推進 改善点

地域との連携、同意状況の把握 改善効果

事業進捗の円滑化が図られ、事業効果の 早期発現が期待される。



歩道が狭くて、 整備前 田んぼ側

